

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第362回 「人材」と「人在」、そして「人罪」と「人財」

2010.5.2

先般、あるクライアントにお邪魔した際、事務所の壁に貼ってあったポスター、中々興味あるものだった。それは、モチベーション・アップ株式会社（桑島克憲代表取締役 <http://www.motivation-up.co.jp/>）による、社員教育用ポスターである。

「人財」になるための7つの条件

あなたはいくつクリアできますか？

1. 明るく元気な挨拶ができる。
2. 言われなくても、自分で考え、行動できる。
3. 人がイヤがる事も、進んで取り組める。
4. 常に「どうしたらできるか？」を考える。
5. 仕事の納期をキチンと守ることができる。
6. ミスやクレームなどの報告をすぐにできる。
7. 人が見ていなくても、手を抜かずに仕事ができる。

Yes が7つの人	人財	(会社が求めている、良い「じんざい」) 自分で考え、自分で成果をあげられる人
4~6つの人	人材	(会社が求めている、普通の「じんざい」) 言われたことなら、自分でやり切れる人
1~3つの人	人在	(不況になると辞めてほしい「じんざい」) 言われたことを言われた通り、やるだけの人
0の人	人罪	(できるだけ早く辞めて欲しい「じんざい」) 言われたこともできないのに、不満の多い人

同じ「じんざい」でも、4つのタイプがあること、明確である。特に中小企業は、「人」「物」「金」が決して十分とはいえない経営環境の中で、毎日四苦八苦しているのが現状。とりわけ「人」に関しては、優秀なスタッフは、集まらないし、中々定着もしない。数少ない従業員のひとりでも多くが、「人財」を目指して邁進できる職場環境を作ること、中小企業経営者の最大な課題のひとつといってもいいだろう。

従業員が行き来する、一番目立つ場所にこのポスターが貼ってあった、冒頭のクライアント。40歳代半ばの2代目経営者だ。この感覚がある限り、実績を徐々に好転させている。先代の時に比べ、従業員も増え、売上も伸ばしている。経営や情報に関するアンテナも高く、不況風が厳しい現状の中でも、何とか乗り越え、必ず生き残っていくだろう。小生、全くご縁がないが、興味のある方は是非、モチベーション・アップ株式会社のホームページをご覧くださいこと、お勧めしておく。

わが社には何人の「人財」がいるか、何人の「人財」の育成を目指すか、ライバル同士で競い合っていくこと、そんな刺激を、自ら作っていかなければならない。心地よい、平々凡々は、経営衰退の始まりである。